

NO.
35



岩田 とも子

県議会レポート



発行所/〒861-2103 熊本市東区若葉5丁目8-14
連絡先/立憲民主連合 TEL:096-333-2644
FAX:096-387-5223
E-mail: tomokorin.berurin@icloud.com
HP: <http://www.webrun2.jp/tomo-tomo55/>

ご挨拶

2024年の幕開けです。今年もよろしくお願いいたします。

12月定例議会で、熊本県知事として4期務められた蒲島郁夫氏は3月の知事選に出馬をしないと自民党前川議員の質問に答えられました。私の一般質問の順番がその次でしたが、議会棟はいつになくにぎやかでした。休憩時間もマスクミ対応で蒲島知事は忙しそうでした。

知事の任期は4月まではあるので、ご本人が言われるようにしっかりと責任持って最後までお仕事をさせていただきたいと思います。



【熊本県議会のホームページ】

県議会インターネット
中継・録画はこちらより
ご覧ください



12月議会報告

12月補正予算は541億円。主なものは次のとおりです。

- 熊本地震復興基金交付金 — 47億5000万円
- 益城町土地区画整理事業等の推進 — 1億2500万円
- 阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の推進 — 8000万円
- 半導体産業の集積に伴う営農継続に向けた農地の緊急確保対策 — 7000万円
- 漁業取締体制の検討を踏まえた漁業取締船の代船建造 — 7000万円

- ふるさと応援寄付金にかかる経費 — 11億1100万円
- 令和5年梅雨前線豪雨等による災害からの復旧 — 11億3700万円
- 防災、減災、国土強靱化の推進 — 317億5400万円
- 経済対策に合わせた独自の地域活性化策 — 57億8300万円

などです。

補正後の一般会計予算額は1兆46億円となりました。

委員会報告

経済環境委員会

■ ノーモア水俣第2次訴訟の控訴に我が会派は反対をしましたが、採決では賛成多数でした。

海の再生及び環境対策特別委員会

■ BDF(バイオディーゼル燃料)について協議しました。私は廃油回収の啓発が進んでいないと思います。現在37市町村でステーションや拠点で廃油を集めています。廃油回収後、熊本県内でバイオディーゼル燃料に変え、それを使うというサイクルを作っていくことが大事です。

請願・陳情

● 私も紹介議員になった「教育費負担の公私間格差・自治体間格差をなくし、子どもたちに行き届いた教育を求める」請願は不採択となりました。

● 「診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬・保育等の公定価格において社会情勢に応じた適切な対応を求める」意見書は全会一致で採択されました。

岩田とも子の 政治活動

今年も昨年同様
より良い政治を
目指します！



特別委員会の視察で、四日市市にあるジャパンマテリアルに行きました。半導体工場の関連企業です。定年のない会社で、70代の職員の方とお話しました。



自動車関係の労組の皆さんに県政報告をしました。活発な意見が出ました。



私学助成の請願を出された先生の生徒たちと意見交換をしました。残念ながら、請願は採択されませんでした。



環境委員会の視察で、三重県の伊勢志摩国立公園に行き、観光にどのように力を入れておられるのかお聞きしました。



12月8日 平和のための反戦集会に参加 平野みどりさんと一緒にです。



天草拓心高校の実習船「熊本丸」で、現状をお聞きしました。一般質問もしました。



環境委員会の視察 四日市市の四日市公害と環境未来館を視察。ここにも市内の小中学生がきて公害と環境について勉強するそうです。

Instagram



facebook



岩田智子の一般質問

Q1 県助成金不適切受給問題

岩田

県の旅行支援事業の助成金を旅行会社が不適切に受給した疑いがあるとされている事件について、前回の代表質問や記者会見で、議員や記者に対して答えておられるが、熊本県行政のトップとしての責任をどう感じているか県民に向けて話していただきたい。

蒲島知事

公益通報制度による指摘を受けたので、真摯に対応している。第三者委員会の調査により、事実関係を明らかにすることが、知事である私がなすべき責務であります。

岩田

「一企業の社長ならば許されない」「知事ではなく一県民ならばどう思うか考えてほしい」などの意見をあちこちで聞く。県民のことを見てほしいし、部下である通報した職員へも思いを馳せてほしい。公金について、県民は厳しく見ている。

Q2 水俣病問題

岩田

本人の責任のないところで、原因がわかっていたにも関わらず、工場から流され続けたメチル水銀による中毒にさせられた上、地域の人たちからも差別され、自分が水俣病であることすら考えられなかった人たち、言い出せなかった人たちがおられた。それを、「水俣再生」という形でリードしてきたのは熊本県である。知事はいつも「水俣病は私の政治の原点である」と言われているが、具体的にはどういうことなのかお聞きする。

また、大阪地裁でのノーモア水俣第2次訴訟で、県は控訴を決定したが、今後水俣病早期解決、早期救済に向けて熊本県がどのようなリーダーシップをとっていかれるのかお聞きする。

蒲島知事

水俣病問題には、常に関心を寄せてきた。28歳の頃ハーバード大学で、水俣病が「公害の原点」として国際的にも注目されていることを知った。知事選に立候補し、「弱い立場の人の目線に立つ」というのが政治の原点につながった。特措法後37000人以上の人が救済された。地域生活支援についても検討をしている。健康調査について、環境大臣に取り組みの加速化を粘り強く求める。水俣病解決は県政の重要課題である。

Q3 熊本の地下水保全

岩田

熊本市の地下水や河川、井戸から有機フッ化物(PFOA・PFOS)が検出され、県民は心配と不安な気持ちになっている。市民団体である熊本の環境を考える会の独自調査でも基準値まではいかないが、高い数値が見受けられる。①地下水汚染の状況をどう受け止めているのか。②PFOS・PFASに関する汚染井戸周辺地区調査や排出源特定のための調査、健康実態を把握する疫学調査は今後どうするのか。③蓄積されつつある汚染状況データを効果的に使い、比較検証できるよう、調査地点や汚染地域の公開、検証体制を確立できないか。④熊本県と半導体工場の水保全に関する協定等を締結するべきでは？

環境生活部長

①指針値を超える井戸等が確認された場合は、国の手引きに沿って市町村と連携し、周辺住民に飲用を控えるよう周知徹底を図る。
②汚染範囲を把握するための追加調査を行う。健康リスクや疫学調査については国の専門家会議で検討されている。注視している。
③調査結果は環境審議会で検証していただく体制を整備している。結果が判明次第市町村と共有する。
④立地協定に「法令を遵守し、環境の保全に努める」旨を規定しており、新たな協定を締結することは考えていない。

岩田

水質汚濁法に則り工場排水の基準値もあるが、有機フッ化物は含まれていないので心配していた。しかし、来年度以降も調査を増やし、対応策にも取り

組むとのことで少し安心した。県民への周知、公表、規制を進めてほしい。また、そればかりでは安心できないため水保全の協定は皆が望んでいる。企業にも水のリサイクル率を上げる努力を義務付けるべきである。うるさがられるほどの態度で良いと思う。熊本の水を守ってほしい。

Q4

再エネ施設建設と
県民の幸福量

岩田

「県民の安心・安全な暮らしを創生！持続可能な社会を実現」これは知事の10の約束の中の5番目の約束。水俣湯出地区の山頂に計画されている大規模風力発電建設について、お聞きする。この計画は今、環境アセスメント準備書の知事意見が待たれているところである。公聴会では65名の住民から反対や不安、危惧する意見が相次いだ。知事の言う「県民の幸福量の最大化」とは何なのかお聞きする。

蒲島知事

再生可能エネルギーを導入する際には、地域との共生を図ることが重要。県では最終的な知事意見を国に提出する必要がある。公聴会や水俣市からの意見が出ている。県民幸福量の最大化に向けて、再生可能エネルギーの導入と、地域共生のベストバランスを目指す。

岩田

企業側としては作りたいので、環境アセスメントは噛み合わない説明になっている。住民の皆さんが、ベストバランスだと思えるように動いていただきたい。

Q5

里親への支援

岩田

児童虐待件数は過去最多となっている。「家庭養育優先の原理」により、里親家庭で生活することが求められているが、熊本県の里親委託率は全国と比べ低い状況だった。フォスタリング機関が啓発やリクルート、マッチングなど取りくまれており、里親委託は増加傾向である。養育上困りごとがあるという里親さん、体調不良や急な用事などで、里子を預ける必要を感じたことがある里親さんも多くいる。里

親制度への理解がないために、行政窓口や学校などで、関係性を証明する手間暇がかかることもある。里親委託増加は喜ばしいが、支援が必要。里親への支援について伺う。

健康福祉部長

里親制度に対する理解が社会全体に十分浸透していない。また、児童が何らかの障がいがあるケースが増加し、里親の負担は重くなっている。ショートステイやレスパイトケア（委託児童を養育している里親家庭が、一時的な休息のために援助を必要とするケースにおいて、他の里親・ファミリーホーム・乳児院・児童養護施設などを活用して子どもを預けること）の利用促進に取り組んでいる。来年4月から里親支援センターが位置付けられる。更なる支援を図っていく。

Q6

熊本県立天草拓心高校の
実習船「熊本丸」について

岩田

熊本県立拓心高校マリン校舎にある、海洋科学科海洋航海コースは県内唯一の海や漁業について学ぶことのできる場所。県下各地から学びにきている。しかし、実習船である「熊本丸」乗組員定数18名の配置だったが、今は11名となっている。今年5名が辞職した。海事職として民間の船の仕事に移られた方もいる。乗組員欠員の原因と処遇改善についてお聞きする。

教育長

生徒たちは卒業後、海運会社、水産庁、進学等進んでいる。全国的な船員不足、民間企業との給与格差等で欠員が増えている。人材確保について、さまざまに取り組んでいる。給与や待遇改善について、他県の状況について研究を深める。

岩田

熊本丸での実習が生徒たちにも大きな影響を与えている。海洋実習が安全安心に続けられるよう早急に職員確保と離職防止のための処遇改善を進めてほしい。

最後に「今回知事の進退のみに光が当たりましたが、県政の主人公は県民です。私たち議員はその県民の代理人であることを忘れず頑張っていく。」と締めました。